

◆基調講演 議事要旨

ソトコト編集長 指出 一正 氏

「わたしたちはローカルで幸せを見つける ～関係人口とウェルビーイング～」

・今、「二拠点思考」という言葉を提唱している。これは関係人口の裾野を広げてくれるのではない。皆さんもぜひ心の中に土地を、地域を持ってほしい。

・自分は関係人口という言葉の提唱者の一人と言われているが、島根県で関係人口の講座「シマコトアカデミー」を14年間続けている。最初関係人口だった方々が、島根にこれがあると自分も島根も楽しいと言い様々なものやお店・場所を作ってくれている。これが、エリアイノベーションであり、エリアリノベーション。地域に関わる人たちがそこに住んでいる人だけでなく、町や地域を盛り上げる現象を起こす力、可能性を秘めているというのが、島根県の関係人口の例である。

・各地域で新しい盛り上がりが出てきているところに、どんな条件や共通点があるのか、いわゆる「やわらかいインフラセブン」というのを昨年春に提唱した。これらがあるかどうかということが、関係人口が生まれる大きな理由となる。

<やわらかいインフラセブン>

- ①おいしいコーヒー ②バチバチのWi-Fi環境 ③同世代の仲間 ④おしゃれな本屋
- ⑤盛り上がるブルワリー ⑥使い勝手のいいコワーキングスペース ⑦最高のパン

・この7つを集中させるのではなく、分散させて、主人公を複数作り、滞留させ軸をずらしながら、一つの所に集中しすぎないことで経年を拒む。このように地域に盛り上がりを作ることで、新しい人たちが集まり、また新たなやわらかいインフラが作られる。

・自分で見つけた、だから自分で関わりたい。関係人口の初動はここから生まれ、作られる。何か役に立てることをやってみたいというところから、お互いのコミュニケーションが始まる。コミュニケーションが始まることで先輩世代、若い世代関係なくいろんな交流が起きる。美味しいご飯を食べることで、自分ができることを真剣に考える。

・これは外から来る関係人口の変化であるが、これだけではなく、中からの変化を期待している。

・場所が生まれると人が集まる。若い人たちが滞留すると村の夜が変わる。

・新しい人たちがやってきて、中の人たちと交流をすることで、自分で気づく、他人に気づく、地域に気づくのが1回の関係人口講座で村に起きるインパクトである。

・兵庫県はもう先進的な「関係案内所」があると思うが、この関係案内所がどうあるとよいか。

・関係人口をいかにして増やしていくのかという提案は、人は人として暮らしているが、人だけでなく関係を大事にしようとしてくれる場所がどうあるとよいか。（神戸市の旧湊山小学校の廃校舎を活用した「NATURE STUDIO」のような場所）

・今関係人口も様々な形のものが生まれ、その中でも特に注目しているものの一つが「流域関係人口」。例えば武庫川の流域関係人口、千種川流域関係人口のように行政区をまたいだ関係性で、若い人たちが動いているなということに気づき、この言葉を提唱した。

・お互いの域を超えた中で深層的なことで繋がりを感じられる、要は仲良くなりやすい。これが「流域関係人口」である。

・川というものが、実は文化の中核を担っていたということ自体がドラマチック。なので「流域関係人口」というのは古い話だけど、新しい視点である。

・ウェルビーイングというのは、二つの行為によって高まると言われている。一つは短距離・中距離・長距離の移動を織り交ぜて日々暮らしているか。もう一つは、サードプレイスの視点として、家と職場とは別に自分の役割をちゃんと許容している場所を持っているか。

・関係人口というのはウェルビーイング度を高める行動だと考えてもらってよい。

・地域に産業もでき、若い人たちの新たな関与の仕方仕事が生まれたということも関係人口の取組の一つの成果である。

・ローカルで幸せを見つけるウェルビーイングの4つの視点として、

①関わりしろがあるか。②ご機嫌な状態にあるか。③中・長期的な幸せを感じられるか。

④安心感を得られるか。

・この安心感は、実は多自然地域の中で人がホッとする、心が和らぐことに似ており、この点で多自然地域には大きな強みであるのではと思う。

<質疑応答>

Q:町職員であるが、県の関係人口案内所の活動を一緒にやっている。移住して活動に取り組みたい人を見つけるきっかけ作りってものをどうすればいいのか。そのあたりのヒントを教えていただきたい。

A:いきなり移住をするっていうことはなかなか難しいので、ここに自分は居ていい場所なんだとか感覚的なところから、そこを運命だと思う人をどうを見つけるか。こちらからはけしけないで、自発的に興味を持ってもらうためにもあまり見せない方が良いと思う。

Q:若い方の活躍の場はたくさんあると今お聞きした。私は 50 代だが、そういう人間にも何か関わり合いができるところはあるか。

A:今いろんな幅広い活動の場所があるので、年齢とかあんまり気にせずに、何か自分がいいなと思う距離感のところにアプローチして、そこで気分が合えば、自分のパーソナルスペースを侵害されないような形で地域づくりやまちづくりにも関与できる場所を見つけられたらきっと居心地がいいと思う。そういう場所は必ずある。

Q:自分は行政職員であるが、今後関係人口の取組を広げていく中で、行政はこういうところを注意した方が良いといった点があれば、教えてほしい。

A:地域の人たちはあまり触れない、丁重に扱いすぎない、みたいなところが、今の若い世代の人たちにはむしろ居心地がいいのかなと思う。さらに、公務員の皆さんにぜひやっていただきたいのが、人が集まる方法として、1つはスナックをやる、もう 1 つはバーベキューをやる、最後にカレーを食べる。制服や名札を外して、関係人口の皆と一緒に楽しめるようなことができ始めると、地域に現れる人たちのヒントみたいなものが結構多くなるかもしれない。